

2023年度研究発表のためのウェビナー

日本におけるDXの社会的インパクト に関する研究

研究主幹 須藤修



東京財団政策研究所
THE TOKYO FOUNDATION FOR POLICY RESEARCH

日本におけるDXの社会的インパクトに関する研究

日本におけるDXは、主要なIT先進国の取り組みと比較して遅れが目立っている。これからAI（人工知能）がDXの核心をなすと考えられ、とりわけ生成AIやマルチモーダルAIの研究開発、実装については、アメリカ、中国、イギリスに比べ大きく遅れており、さらにドイツ、フランス、インド、韓国、シンガポールなどの諸国とのAI指標の比較をしても決して優位であるとはいえない。そこで、本研究プロジェクトは、各国の戦略、政策の動向、利用可能なデータについて調査したうえで、DX、さらにAIの取り組みと解決しなければならない日本特有の課題群を明らかにする。その上で、課題群を克服するために実証実験とアンケート調査を駆使しながら、Society5.0を実現するためのDX政策や新たなAI戦略の在り方について展望する。



本日のプログラム

- 冒頭挨拶 須藤 修 (研究主幹)
- 「日本のDXに関する計量的分析」 富島悠介 (RA) ・ 王安理 (RA) ・ 須藤 修
- 「DXを高度化する生成・マルチモーダルAIと人間の社会的行為」 須藤 修
- 「地域社会における生成AI・クラウド実証実験」 松崎和賢 (主席研究員)
- 「DXの一環としての生成AI利用とELSI」 原 翔子 (研究員)
- 「遠隔生体識別に関するプライバシー意識の調査」 加藤綾子 (主席研究員) ・ 原 翔子
- 「DX実現に向けた安全安心なAI利用について」 満永拓邦 (主席研究員)
- 総括パネル 須藤・松崎・満永・原・王・富島

* 発表者は下線がついている人です。

総括討論

- 2年半にわたるDX研究の課題遂行と変化への対応
- 生成AIの台頭と対応
- これからのDX遂行にとって重要な政策課題は？